



令和5年度 郡三師会と養護教諭との交流会 養護教諭アンケートより

2月14日（水）に実施した令和5年度揖斐郡三師会と養護教諭との交流会では、揖斐郡消防本部の宇佐美毅様、いびがわ診療所の西脇健太郎先生にご講演をいただくとともに、郡医師会・歯科医師会・薬剤師会の先生方に養護教諭からの質問に対して、ご回答ご指導をしていただきました。交流会の様子については「郡学校保健会だより第5号」にて先日配付させていただいております。

また、交流会後には、養護教諭の先生方に交流会を通して学んだことや感想、これからの指導で生かしていきたい内容についてのアンケートにお答えいただきました。アンケートの結果をまとめた「郡学校保健会だより第6号」を作成致しましたので、ご指導いただきました先生方と各校の養護教諭の先生方に配付させていただきます。こうした取組を通して揖斐郡学校保健会として大切にしている「郡三師会と学校が連携した学校保健指導」がさらに充実していくことを願っております。今後ともよろしくお願い致します。



（1）講演① 揖斐郡消防本部 救急救命士 宇佐美毅様のご講演についての感想や学んだこと、これから生かしていきたいと思ったことを書いてください。

- 私は養護教諭1年目で、まだ救急車を要請したことがありません。今回の講演で、学校から救急隊のかたへ児童を引き継ぐ際、どのような対応をしておくべきかということ具体的に教えていただいたので、いざというときに状況評価と傷病者評価を冷静に行いたいと思いました。
- さっそく、携帯資器材の中身を再度確認しようと思いました。緊急時の安全確認や感染防御等の状況評価はとても大切なことなので、再度確認ができて良かったです。
- 先生のお話の中で、養護教諭が応急処置を誤っても故意でない限り過失を問われないとあり、安心しました。しかし、養護教諭である以上、可能な限りの応急処置ができるようにするために先生のお話を参考にしていきたいと思いました。普段、体温や脈拍以外のバイタルは問診でとらないですが、意識レベルや血圧、呼吸数など少しでも正確に児童の状態を把握できる数値は大切だと感じたので今後活用できるようにしていきたいと思いました。
- 養護教諭の「この子、いつもと様子が違う。」という感覚を大切にしていきたいと改めて思いました。児童の普段を知っておくこと、校内で協力できる体制をととのえておくこと、物品も確認しておこうと思いました。
- 緊急時の基本的な対応や、救急隊へ繋ぐまでに養護教諭ができることについて学ぶことができました。状況や傷病者の評価を適切に行い、対応する力が重要だと感じました。自身も研鑽を積みながら、今後も定期的に校内体制を見直したり、職員への伝達等も行っていきたいと思えます。
- 緊急時は対応が正しいかどうか、何をしなければならないか不安になることもありますが、対応の手順について一つ一つ分かりやすく教えていただき、今自分が考えておかないこと、準備しておかなければならないことに気付くことができました。緊急時の保健グッズについても、もう一度中身を確認し、備えておきたいです。
- 救急車がくるまでに自分が取るべき行動がとても分かりやすく理解することができました。自分が取るべきことと禁忌な行動を分けて分かりやすくお話して下さったので、少し自信をもって救急対応に臨むことが出来そうです。
- 日々、子供たちと生活していく中で、けがや病気への対応に迷うことがたくさんあります。一つ一つの対応においても、自信がなかったりする場面があります。今回、救急救命士の方から『緊急時救急車が来るまでの養護教諭としての対応』を具体的にお話が聞け、とても勉強になりました。自分自身、今日を振り返りながら執務をしていきたいです。
- 大きな外傷等は発生頻度が少ない分、応急手当や対応についても実践が少なく、不安に感じています。今回のように日々緊急時の対応をしている方からのお話を聞かせていただくことで、より現場をイメージしながら対応等を学ぶことができました。今回教えていただいたことを繰り返し確認



し、適切に対応できるようにしたいです。

- 救急車が来るまでに、養護教諭としての適切な対応について改めて確認するとともに、バイタルに必要な具体的な正常値の数値を知りました。校内で職員に周知し、マニュアルの見直しや救急車に通報するときや保護者に伝えるべき内容、記録用紙の作成と見直しを早速学校に戻って実行しました。養護教諭や管理職が不在時であっても、いつでも誰でも子どもたちの命を守っていくことができるよう、平常時から研修を定期的に行なっていきたいです。
- 今日の講演で本校の職員への周知が大切な内容だと確認しました。今年度、救急搬送した際の職員の動きについて、課題が残ったので次年度シミュレーション等研修したいと思いました。

(2) 講演②いびがわ診療所 西脇健太郎先生のご講演についての感想や学んだこと、これから生かしていきたいと思ったことを書いてください。

- 子どもが初めて「痛い」という言葉を発するのはだいたい1歳半だということが分かりました。小学校中学年では「痛い」が感覚的にわかるようになり、高学年でやっと「痛い」の意味が分かるということを知りました。このことから、低・中学年の児童は、腹痛・頭痛などの痛みを自分の言葉で伝えることが難しいため、私たち教員が児童の顔色や手振り、姿勢などを観察して、いつもと違う様子に気付いてあげることが大切だと思いました。
- 小学生の児童の痛みの表現は極端で保健室で対応する際に困ることが多々ありました。先生のお話の中で、発達段階によって痛みのとらえや表現が異なると知り、とても興味深く納得しました。健康の状態の児童の様子を知っているからこそ、異変に気付くことがよく分かりました。日々の健康観察や担任の先生方との情報共有を通して児童の姿をつかんでいきたいと思いました。
- 医療機関受診の目安がよく分かりました。また、傷病者の「症状の経過の記録をとっていくこと」を今後意識して学校医の先生とも常に情報共有しながら、対応していきたいと思いました。
- 日々の対応の中で判断に迷うことがたくさんありますが、医療機関への受診の目安などをわかりやすく示していただけただけなので、今後の対応に生かしていきたいです。
- 腹痛や頭痛などの痛みの程度は低学年ほど分かりにくく、対応に不安を感じることもあったため、痛みの自己申告スケールを取り入れてみたいと思いました。また、片頭痛の児童が増えており、保護者と連携を図りながら対応しているが、小児は非拍動性の傾向が強いということを知り、頭痛の対応については様々な可能性を考えながら慎重に対応したいと思いました。
- 保健室でよくある訴えを高度な医学の観点から、症状から予測できる疾患の説明がとても役に立ちそうです。中学生に痛みのスコアを使って尋ねることを良くするのですが、多くの生徒が最大の痛みと訴えることが多く、これで良いのか疑問に思うこともありましたが、1つの指標として今後も活用していきたいです。また、前に述べたように痛みがかなり強いと訴える生徒が多く、その度に、何か疾患があるのかと不安になります。今回のお話を聞いて、痛み以外にも客観的に判断するための知識が増えたので、少しは自信を持って対応できそうです。
- 子どもは痛みを上手く表現できないことや診断する際に病歴や病状の背景が重要な情報になるというお話があったように、私自身も普段の子どもの様子や特性を知っておくことは、保健室対応をする上で大切なことだと日々感じています。改めて、子どもとのコミュニケーションや丁寧な問診を意識して努めたいと思いました。
- 子どもたちのけがでけがで最も多い種類は擦過傷です。また、運動場で転ぶことが転ぶ事が多く砂が入った傷がほとんどです。流水で洗っても落とさきれない砂をそのままにすることの影響を知り、確実に保護者に報告できるようにしていきたい。また、喘鳴が起こる原因や記録の大切さを改めて感じた。内科的疾患についても、痛みのスケールを視覚的に表す方法は今後のアセスメントに生かしていきたい。
- 西脇先生には、受傷した児童の診療をいつも快く受け入れてくださり、大変お世話になっております。痛みの表現について、スケールを用いて子供に聞くことは、痛みの度合いの変化を知る上で有効であると思われるので、是非取り入れていきたいと思えます。



(3) 養護教諭部会からの質問にご回答いただいた三師会の先生方のご指導（ご回答）から学んだこと、これから生かしていきたいと思ったこと及び感想を書いてください。

- 毎回、多くの先生から具体的に、教えていただいて非常に勉強になりました。感染症や熱中症に関する専門的なアドバイスをいただいたので、他の教職員や保護者などにも共有したいです。

- 普段の執務に活かせることばかりで、大変ありがたく思っています。日常の疑問を解決できるこのような会が今後も続いていくとよいと思います。また、専門的な立場から質問に答えて頂き、本校の職員へ回覧し、研修内容を共有しました。
- 起立性調節障害に関して、適切な医療機関につなぎたいと思った。色覚について、資料は白黒印刷をして見にくくないか確認しようと思った。
- 受診の目安など具体的に教えていただき、勉強になりました。また、感染症予防の薬剤について今まさに検討していたところなので、参考になりました。
- 野田先生のお話の中で、校長が出席を停止させることができる感染症にあがっていない場合は、欠席扱いという内容があり、ちょうど困っていた対応について知ることができたので良かったです。
- 気象病や捻挫のご指導がとても勉強になりました。今後の保健室対応に生かしていきたいと思えます。
- 一つ一つの質問に丁寧にご回答いただきありがとうございました。感染症報告書についてや、ODに関する情報はタイムリーで、詳細をすることができてありがたかったです。
- 新型コロナだけでなくインフルエンザの流行もあり、学校内で感染者が増加した際には感染予防対策についてどの程度までの対策をすべきか、行動を制限しなければならないのかなど、その都度学校医の先生と相談しながら対応してきました。教育活動をできるだけ制限せず、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう、今後も積極的に学校医の先生との連携を図るということを大切にしていきたいです。
- 疑わしい症状だったり、受診に迷った際には、「大丈夫だろう」と判断せず、医療機関の受診を勧めたいと思いました。また、学校医や地域の関係機関等からも協力をいただきながら、多角的な視点で支援方法を探っていきたいと思いました。
- それぞれの立場で専門的な視点から教えていただけて、非常に勉強になりました。子どもたちの実態として、メディア使用による視力低下は深刻な問題であると考えており、学校保健安全委員会でも話題に上がっています。近視進行抑制治療というものの治療というものがあることや、効果について始めて知りました。学校では、メディアの使い方や外での運動の推奨など、児童や保護者に働きかけ続けたい。また、色覚異常が疑われる児童については、見やすい色や学校生活での配慮すべき点を教職員に伝え、適切な支援ができるようにしていきたい。
- 不登校の児童が多くなってきているが、改めて起立性調節障害も視野に入れて対応していきたい（服薬しながら登校している子もいる）と思いました。また、頭痛を訴える児童は多く、気象に関係していると思われる子もいるので、受診の勧めや声かけについて気をつけていきたいです。
- 歯科医の先生による「歯科医との連携の回り方」についての回答から、私は歯科医の先生がお忙しいため、健診後に話しかけることを遠慮してしまいます。しかし、回答によると、健診直後のディスプレイが一番効果的ということなので、遠慮せずに相談したいと思いました。
- 歯科指導の際、感染予防で気を付けることとして、歯ブラシを丁寧に洗うことや、予防対策をしていけば安全であることを今後指導していきたいと思えます。
- 環境衛生教育で、児童一人一人が自分の健康を考えた教育環境を進めることが大切だと思いました。



（４）その他（会のもち方や日々の実践の中で感じていることなど）があったら書いてください。

- 三師の先生方に日ごろ対応に困っている内容に対してアドバイスを頂けるこの会はとても勉強になりました。ありがとうございました。
- 今後も、三師会との交流の機会をいただけると養護教諭としての職務の自信に繋がります。会の開催にあたり、準備等ありがとうございました。
- 日々、これでよいのかと悩んだり、本などで勉強しながら対応を行っている。このような場を設けていただき、大変勉強になりました。事前に質問し、回答も事前に読めるのでありがたい。心理カウンセラーなどにも話を聞きたい。
- 即実践に活かせることばかりで良かったです。次回も、こういう会がありがたいです。
- 専門的な知識を持った養護教諭という学校に基本1人しかいない立場で不安に思うことが多い中で、このような機会が不安の解消につながるのととてもありがたいです。このように対面型で教えていただくほうが、個人としては勉強になります。